

1 研究会協議のテーマ（話し合いの目的）

二宮町の子どもたちが抱える、現状の課題を見つめ直し、9年間の義務教育の中で育てたい子ども像を協議。その子ども像へ繋がっていく道筋、終了時の子どもの姿、小中一貫教育の中でできることと環境づくりについて協議する。

2 協議の要点

- ・令和4年4月に公開された「二宮町小中一貫教育推進計画」の中で提示された「目指す子ども像」（←教育委員によってつくられたもの）や「教育目標」（←先生方によってつくられたもの）をベースとしつつも、本研究会の多様な構成メンバーで改めて協議する。
- ・終了時15歳の姿を見据えたものとする。
- ・キーワードとして、「心・自己確立」「学力・学習」「学ぶ意欲・キャリア学習」「社会性・他者との協働・多様性」「地域・世界・広い視野」という5つのグループに分類してまとめている。
- ・目指す子ども像実現に向けて、「学校」「家庭・地域」での大人の役割についてまとめた背景には、子どもに求めるだけでなく、そのために大人としてやるべきことについて触れている。またこの案では、5つの分類の内「学力・学ぶ意欲・キャリア学習」を一つにして4つの分類案もまとめている。
- ・その後の案としては、一つに絞り、「自分の強みを生かして心豊かに生きる子」と具体的に表現した。この中には研究会会員の中から非常に多く出た「自尊感情、自己肯定感を高めて欲しい」という想いを取り入れ、「自己実現がはかれるような成長のための学習環境」への思いを盛り込んだ。その実現に向けた4つの方向性もまとめる。

3 提言に盛り込みたいこと

- ・協議の要点で触れてきたように、様々な会員の意見から集約し一つにまとめた案が提示されているが、このように、本研究会の中でこれだけは外せないというものを再度協議して、それを核としたひとつの子ども像でいいのではないかなと思う。たくさん意見を広く網羅した表現だと、やはり一般的にはありきたりの曖昧な表現になってしまうのではないかな、という想いに達した。
- ・そう考えると、今見えている子どもたちの課題からの脱却として「自尊心」「自己肯定感」を高めて欲しいという多くの会員の願いや想いを反映したものがいいのではないだろうか。
- ・もうひとつ、「みんなが幸せに生きられること」が、人類の大きな目指す方向性であり、そのための教育であるのではないかと、ニールセン北村さんの講演で学んだ。本研究会として、本当に外せない大きな大義はここなのではないかと改めて会員の皆様に投げかけて考えてみたい。
- ・そのうえで、目指す子ども像をひとつ決められたらよいのではないかなと思う。

4 参照先

令和4年度第2回、第3回、第5回議事録

担当者氏名（ 杉本かおり・渡辺優子 ）